



「開校記念日によせて」

校長 曾我 泉

西原小学校の開校記念日は、4月21日でした。

開校したのは、昭和3年です。関東大震災の被害が少なかったこの地域に多くの人に移り住んできて、人口が増えるとともに小田急線が開通して産業も発展してきました。そこで、この地域に学校をと望まれ、開校に至ったそうです。開校時は、「東京府豊多摩郡西原尋常小学校」と呼ばれていました。

開校当時の周辺は、ススキ野原に囲まれ、玉川上水（現在は緑道）の清流で虫が飛びかっていたそうです。この西原の地域に牧場があったといいますが、今となっては想像ができません。

西原小学校が全校で取り組んでいるけん玉の活動は、60周年のころから取り組みが始まり、すでに30年間続いていることがわかりました。6年間の積み重ねは大きく、6年生の「もしかめ」の速さと正確さには驚くばかりです。

校章は、ススキをモチーフにしています。ススキは、日本全土の野原、空き地などいたるところに群生しています。地下には地下茎があり、つながっています。本校の児童もススキのように多くの仲間と力を合わせて、たくましく力強く伸びることを願っています。

保護者の方、地域の方に卒業生が多く、それぞれに「西原小の思い出」が語れることがとても素敵なおことです。今の子供たちにとっても、いつまでも心のふるさとであるように、力を付けていきたいものです。

今年度から、渋谷区の小中学校では「シブヤ科」の取り組みが始まりました。渋谷区のことを知る中で、地域への誇りと参画意識を高めていきます。新たな教科を設定するのではなく、これまでにあった活動の視点を変えながら進めていきます。地域や保護者の皆様にご協力いただくこともありそうです。どうぞよろしくお願いいたします。

最上級生としての6年生の姿

6年生が最上級生としての活躍を見せています。

始業式や入学式では代表としての言葉を立派に伝えました。

児童朝会では、順番に、挨拶の前の一言を話します。

1年生が慣れるまでは、朝の支度の仕方を教えたり、1年生の教室の掃除をしたりして1年生のお世話を励んでいます。6年生が遠足の次の日に、1年生が、6年生がいなくて寂しかったと教えてくれました。

目立たないけど大事な「旗あげ」の仕事も毎日頑張っています。

今までの6年生の頑張りを見て、自分たちもどうしたらよいか考えて行動しています。「西原小のよい姿は、こうして引き継がれていくんだな。」と、感心しているところです。



5月の生活目標

すばやい行動をして時間を大切にしよう

保健目標

病気を早く治そう

良い姿勢で学習しよう

給食目標

マナーを守って食事をしよう

《地域の方の協力》

今年度もコミュニティースクールとしての活動が始まっています。

学校運営協議会で情報交換する中で、西原地区体育会の皆さんに、「スポーツテスト」や「パラスポーツ・ポッチャ」のゲストティーチャーをしていただくことになりました。ありがとうございます。